

～ 飼料用米の生産を考えている生産者の方へ ～

「むさしの26号」を作ってみませんか

埼玉県農業再生協議会

★ 令和6年産以降、一般品種で飼料用米生産に取り組む場合の支援が段階的に引き下げられます。

★ 知事特認品種「むさしの26号」や多収品種※の飼料用米支援は、従来どおりです。

※多収品種: いわいだわら、えみゆたか、オオナリ、きたげんき、北瑞穂、クサホナミ、たちじょうぶ、ふくのこ、ふくひびき、ベこあおば、ベこごのみ、北陸193号、ホシアオバ、ミズホチカラ、みなちから、モグモグあおば、もちだわら、モミロマン、夢あおば、笑みたわわ、垂細垂のかおり(R5.6月現在)

「むさしの26号」の特徴

- ◆ 収穫時期は、「コシヒカリ」と「彩のかがやき」の間になります。
- ◆ 地域の慣行栽培で、県平年単収(過去5年平均 494kg/10a)の10%以上の収量が見込めます(裏面データ参照)。
- ◆ 肥料の量は少なめでも、収量がそれほど低下しませんので肥料の節約になります **(肥料を多く入れすぎると倒れます)**。
- ◆ 草丈が「コシヒカリ」や「彩のかがやき」と同じくらいなので、コンバインで高刈りせずに問題なく収穫できます。

…詳しくは裏面の「栽培の目安」をご覧ください。

奨励品種決定現地調査からみた作型別品種特性 (平成26-27年平均)

作型	田植日	出穂期	成熟期	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	収量 kg/10a
早植	5/5	7/31	9/11	81.9	22.0	344	589
	5/24	8/9	9/19	92.1	22.0	337	572
麦あと	6/24	8/25	10/15	89.3	20.8	392	555

※肥培管理は現地の慣行による(多肥栽培ではない)

◎ 注意事項

「むさしの26号」の生産に取り組むにあたり、共同乾燥施設の利用を予定される場合は、地域のJAにご相談ください。主食用米として絶対に流通させないこと。主食用米としての流通が確認されると知事特認が「取り消し」になります。

～ 飼料用米の生産をしている方へ ～

飼料用米生産への支援が 変わります

(水田活用の直接支払交付金)

埼玉県農業再生協議会

★ 令和5年産から支援単価の算定方法が変わります。

具体的な算定方法

- ◆ 数量払いについては、1.70mmふるい上の収量を用いて単価を計算します。
- ◆ 飼料用米をふるいにかけていない農業者が、実際にふるいにかけていただく必要はありません。ふるいにかけない場合は、地域ごとの「1.70mmふるい上の割合」を用いて、ふるい上の米に相当する収量を計算することも可能とする方針です。

★ 令和6年産から、一般品種で飼料用米生産に取り組む場合の支援が段階的に引き下げられます。

多収品種・知事特認品種の飼料用米支援は、従来どおりです。

	令和5年産	令和6年産	令和7年産	令和8年産
一般品種	・数量に応じて、 5.5～10.5万円/10a (標準単価8.0万円/10a) (従来と同様)	・数量に応じて、 5.5～9.5万円/10a (標準単価7.5万円/10a) or ・単価7.5万円/10a	・数量に応じて、 5.5～8.5万円/10a (標準単価7.0万円/10a) or ・単価7.0万円/10a	・数量に応じて、 5.5～7.5万円/10a (標準単価6.5万円/10a) or ・単価6.5万円/10a

多収品種リスト(令和5年6月現在)

むさしの26号(知事特認品種)、いわいだわら、えみゆたか、オオナリ、きたげんき、北瑞穂、クサホナミ、たちじょうぶ、ふくのこ、ふくひびき、ベこあおば、ベこごのみ、北陸193号、ホシアオバ、ミズホチカラ、みなちから、モグモグあおば、もちだわら、モミロマン、夢あおば、笑みたわわ、亜細亜のかおり

◎ 注意事項

多収品種・知事特認品種の生産に取り組むにあたり、共同乾燥施設の利用を予定される場合は、地域のJAにご相談ください。

多収・知事特認品種「むさしの26号」の特性と飼料用栽培の目安

令和5年6月 埼玉県農業技術研究センター・全農さいたま営農支援部

品種特性	栽培・作業暦	目標収量と収量構成要素																								
<p>早晚性: 中生の晩 出穂、成熟は「コシヒカリ」と「彩のかがやき」のほぼ中間</p> <p>草型: 偏穂重型 穂数は少ないが1穂粒数が多く、着粒はやや密</p> <p>稈長: 長い 「彩のかがやき」よりも長い</p> <p>耐倒伏性: 中程度で「キヌヒカリ」並 稈長が90cm以上になると倒伏程度が大きくなる</p> <p>収量: 多収性 早植で570~600kg/10a、普通期で540~570kg/10a</p> <p>穂発芽性: 「難」で穂発芽しにくい</p> <p>病害虫抵抗性: 縞葉枯病抵抗性、ツマグロヨコバイ抵抗性 いもち病にやや弱く、白葉枯病には弱い 紋枯病も発生し易いので注意</p> <p>高温耐性: やや強 「彩のきずな」と同等で白未熟粒が少ない</p>		<p>目標収量と収量構成要素</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作型</th> <th>早植栽培</th> <th>普通期栽培</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>移植時期</td> <td>5月20日植</td> <td>6月10日植</td> </tr> <tr> <td>目標収量</td> <td>600kg</td> <td>560kg</td> </tr> <tr> <td>m²当り穂数</td> <td>360</td> <td>350</td> </tr> <tr> <td>1穂粒数</td> <td>95</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>m²当り粒数</td> <td>34,200</td> <td>30,800</td> </tr> <tr> <td>登熟歩合</td> <td>80%</td> <td>82%</td> </tr> <tr> <td>玄米千粒重</td> <td>22g</td> <td>22g</td> </tr> </tbody> </table>	作型	早植栽培	普通期栽培	移植時期	5月20日植	6月10日植	目標収量	600kg	560kg	m ² 当り穂数	360	350	1穂粒数	95	88	m ² 当り粒数	34,200	30,800	登熟歩合	80%	82%	玄米千粒重	22g	22g
作型	早植栽培	普通期栽培																								
移植時期	5月20日植	6月10日植																								
目標収量	600kg	560kg																								
m ² 当り穂数	360	350																								
1穂粒数	95	88																								
m ² 当り粒数	34,200	30,800																								
登熟歩合	80%	82%																								
玄米千粒重	22g	22g																								
栽培方法		留意点																								
<p>栽培の適期 早植から普通期(5月中旬から6月下旬)。</p> <p>栽植密度 3.3m²あたり60~70株。1株穂数が多くないので、収量を確保するためには、疎植は避ける。</p> <p>施肥</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">肥料名称</th> <th rowspan="2">成分含有量</th> <th rowspan="2">現物施用量</th> <th colspan="3">成分量</th> </tr> <tr> <th>窒素</th> <th>リン酸</th> <th>加里</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基肥</td> <td>高度化成</td> <td>14-14-14</td> <td>35kg</td> <td>4.9</td> <td>4.9</td> <td>4.9</td> </tr> <tr> <td>穂肥</td> <td>NK化成</td> <td>17-0-17</td> <td>12kg</td> <td>2.0</td> <td>0</td> <td>2.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>穂肥の時期: 出穂の20日前~17日前(幼穂長2~10mm)とし、伸びすぎによる倒伏の防止と登熟歩合・千粒重の向上を図る。 家畜糞堆肥を施用する場合は、堆肥の特性を把握し、その分の肥料を減らす。</p> <p>水管理 有効分げつが決定したら速やかに中干しを行う。早植では田植後35日頃、普通期では田植後30日頃が目安。</p> <p>病害虫防除 いもち病、紋枯病、もみ枯細菌病については、箱施薬による防除を基本に、多発が懸念される場合には本田防除を行う。</p> <p>収穫期判断 登熟積算気温1100℃から刈取り開始。適期は1100℃の頃。早植では出穂から40日目、普通期では出穂から45日目が目安。</p>			肥料名称	成分含有量	現物施用量	成分量			窒素	リン酸	加里	基肥	高度化成	14-14-14	35kg	4.9	4.9	4.9	穂肥	NK化成	17-0-17	12kg	2.0	0	2.0	<p>栽培暦の考え方 「むさしの26号」は、適量の施肥で既存品種よりも多収が期待でき、肥料高騰の現状に適した特性をもつ。一方、多肥では倒伏のリスクが高くなる。このことから、品種特性を生かした効率的かつ倒伏のリスクを軽減することを目的として栽培の目安とした。</p> <p>育苗 種子の休眠が深いので芽出しのための浸種を1日長くする</p> <p>植付株数 穂数を取りにくいので、疎植栽培は行わない</p> <p>倒伏防止 稈長90cm以上になると倒伏が増加するので多肥は避ける。また、生育全般に葉色が淡いので葉色での過度な追肥に注意する。</p> <p>中干し 1cm程度の小ヒビで終了する。長期、過度には行わない</p> <p>病害虫防除 紋枯病の多発は減収につながるため、発生に注意し早めの防除を行う。</p> <p>その他 主食用米として絶対に流通させない。多収品種の知事特認は主食用米としての流通が確認されると取消しになる。</p>
	肥料名称					成分含有量	現物施用量	成分量																		
		窒素	リン酸	加里																						
基肥	高度化成	14-14-14	35kg	4.9	4.9	4.9																				
穂肥	NK化成	17-0-17	12kg	2.0	0	2.0																				